

# もくじ

もくじ .....	1
はじめに .....	3

## 1章 通信機能 7

1 LANへ接続する .....	8
① ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN） .....	8
② ケーブルを使わないLAN接続（無線LAN） .....	11
③ ネットワーク設定に便利な機能 .....	22
2 内蔵モデムについて .....	24
① 海外でインターネットに接続する .....	24

## 2章 周辺機器の接続 27

1 周辺機器について .....	28
① 周辺機器を使う前に .....	29
2 PCカードを接続する .....	30
① PCカードを使う前に .....	30
② PCカードを使う .....	31
3 USB対応機器を接続する .....	33
4 テレビを接続する .....	35
5 外部ディスプレイを接続する .....	41
6 プリンタを接続する .....	43
7 i.LINK（IEEE1394）対応機器を接続する .....	45
8 その他の機器を接続する .....	47
① マイクロホン .....	47
② ヘッドホン .....	48
9 メモリを増設する .....	50

## 3章 バッテリー駆動 55

1 バッテリーについて .....	56
① バッテリー充電量を確認する .....	57
② バッテリーを充電する .....	59
③ バッテリーパックを交換する .....	62

2 省電力の設定をする .....	64
① 東芝省電力 .....	64
3 パソコンの使用を中断する／電源を切る .....	65
① スタンバイ .....	66
② 休止状態 .....	67
③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する .....	69

## 4章 アプリケーションについて 71

1 アプリケーションを追加（インストール）する .....	72
2 アプリケーションを削除（アンインストール）する .....	73

## 5章 システム環境の変更 75

1 システム環境の変更とは .....	76
2 東芝HWセットアップを使う .....	77
3 パスワードセキュリティ .....	82
① ユーザパスワード .....	83
② スーパーバイザパスワード .....	88

## 付録 91

1 本製品の仕様 .....	92
2 技術基準適合について .....	99
3 無線 LAN について .....	113
さくいん .....	121

# はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

## 記号の意味

 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っているると便利な内容を示します。
 役立つ操作集	知っているると役に立つ操作を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 … 「 」 他のマニュアルへの参照の場合 … 『 』 サイバーサポートへの参照の場合 … 〈 〉 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

\* 1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

\* 2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

\* 3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

## 用語について

本書では、次のように定義します。

**システム** 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム (OS) を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

**アプリケーションまたはアプリケーションソフト**  
アプリケーションソフトウェアを示します。

**Windows XP** Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

**MS-IME** Microsoft® IME 2003 / ナチュラル インプット 2003 を示します。

**サイバーサポート**  
CyberSupport for TOSHIBA を示します。

**ドライブ** DVD マルチドライブを示します。

 参照▶ 詳細について『使ってみよう 1 章 9 ドライブ』

## 記載について

- ・ インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・ アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱の CD / DVD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・ 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

## Trademarks

- ・ Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの商標です。
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・ Fast Ethernet、Ethernet は富士ゼロックス社の商標または登録商標です。
- ・ LaLaVoice、ConfigFree は (株) 東芝の登録商標です。
- ・ Symantec は Symantec Corporation の登録商標です。  
Norton Internet Security は Symantec Corporation の商標です。  
©2004 Symantec Corporation, All Rights Reserved.

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

## プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使用されているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・ 周辺機器を接続して本製品を使用している場合
- ・ AC アダプタを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- ・ マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・ 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- ・ 複雑な造形に使用するソフト (例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- ・ 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合  
目安として、標高 1,000 メートル (3,280 フィート) 以上をお考えください。
- ・ 目安として、気温 5 ~ 35℃ (高所の場合 25℃) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

## 著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作権及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製 (データ形式の変換を含む)、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作権者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

## リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ず読んでください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

## お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・Windows のツールまたはリカバリ DVD-ROM を使用して再セットアップする手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- ・セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- ・ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』またはインターネット経由で登録できます。

 参照 詳細について『さあ始めよう 1 章 6 ユーザ登録をする』

『保証書』は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

# 1 章

## 通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、海外でインターネットに接続するときに必要な設定について紹介します。

---

1	LANへ接続する	8
2	内蔵モデムについて	24

# 1 LANへ接続する

パソコンをインターネットに接続する前に、コンピュータウイルスへの対策を行ってください。

コンピュータウイルスとは、パソコンにトラブルを発生させるプログラムのことで、ハードディスクやデータの一部を破壊するものもあります。

本製品には、ウイルスチェックソフトとして「Norton Internet Security」<sup>ノートン インターネット セキュリティ</sup>が用意されています。『困ったときは 2 章』をお読みになり、必ずウイルスチェックソフトのインストールと設定を行い、定期的にウイルスチェックを行ってください。設定したソフトは常に最新のバージョンに更新するようにしてください。

▶ **参照** コンピュータウイルスについて  
『さあ始めよう 1 章 5 トラブルを防ぐために』

## 1 ケーブルを使った LAN 接続（有線 LAN）

本製品には、ブロードバンド対応の LAN <sup>ラン</sup>機能が内蔵されています。

LAN コネクタに ADSL モデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

また、本製品の LAN 機能は、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) <sup>ファスト イーサネット</sup>に対応しています。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernet <sup>イーサネット</sup>を自動的に検出して切り替えます。

## 1 LANケーブルの接続

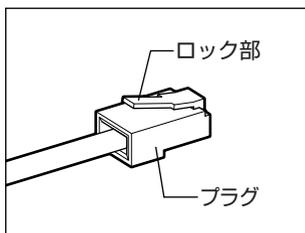
### お願い LAN ケーブルの使用にあたって

- LAN ケーブルは市販のものを使用してください。同梱のモジュラーケーブルは、LAN コネクタには接続できません。
- LAN ケーブルをパソコン本体の LAN コネクタに接続した状態で、LAN ケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LAN コネクタが破損するおそれがあります。

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) で使用するときには、必ずカテゴリ 5 (CAT5) 以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。

10BASE-T 規格 (10Mbps) で使用するときには、カテゴリ 3 (CAT3) 以上のケーブルが使用できます。

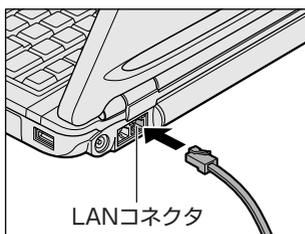
カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、数字が高いほど品質が高くなります。



LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

### 1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

### 2 LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む



ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

LANケーブルはモジュラーケーブルと似ているので、間違えないよう注意してください。

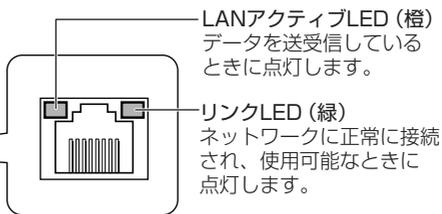
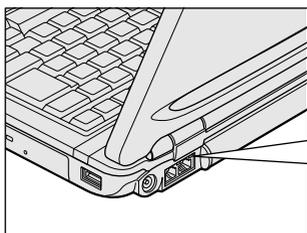
プラグの差し込み部分に線が8本あるのが、LANケーブルです。

### 3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、《サイバーサポート》を確認してください。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

## 2 LANコネクタに関するインジケータ

LANコネクタの両脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



LANアクティブLED (橙)  
データを送受信しているときに点灯します。

リンクLED (緑)  
ネットワークに正常に接続され、使用可能なときに点灯します。

### 3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

#### お願い

- ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行ってください。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[  ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

## 2 ケーブルを使わないLAN接続（無線LAN）

本製品には、無線LAN機能が内蔵されています。

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータをLANシステムに接続できます。

無線LANアクセスポイント（別売り）を使用することによって、複数のパソコンからワイヤレスでブロードバンド環境を実現できます。

### 1 無線LANの概要

本製品にはIEEE802.11gおよびIEEE802.11bに準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 転送レート自動選択機能  
54、48、36、24、18、12、9、6Mbpsの転送レートから選択可能です。
- 周波数チャンネル選択（2.4GHz帯）
- マルチチャンネル間のローミング
- パワーマネージメント
- データ暗号化（WEP152bit、AES256bit）

### 【無線LANの種類】

無線LANは、IEEE802.11gおよびIEEE802.11bに準拠する無線ネットワークです。無線LANはIEEE802.11gの場合は最大54Mbps、IEEE802.11bの場合は最大11Mbpsの転送レートをサポートしています。

- IEEE802.11gでは「直交周波数分割多重方式」（Orthogonal Frequency Devision Multiplexing, OFDM）、IEEE802.11bでは「直接拡散方式」（Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS）を採用し、IEEE802.11に準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi Alliance認定のWi-Fi（Wireless Fidelity）ロゴを取得しています。Wi-Fiロゴは、IEEE802.11に準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。

## 【無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意】

(お客様の権利(プライバシー保護)に関する重要な事項です！)

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる  
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、  
IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報  
メールの内容  
などの通信内容を盗み見られる可能性があります。
- 不正に侵入される  
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、  
個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)  
特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)  
傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)  
コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)  
などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANカードや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルにしたがって行ってください。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

無線LAN内蔵ノートパソコンのセキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、東芝PCダイヤル(巻末参照)までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

### 【暗号化】

WEP（暗号化）機能を使用しないと、無線 LAN 経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。

そのため WEP 機能を設定されることを強くおすすめいたします。

 参照 ▶ WEP 機能の設定「本項 4-WEP 機能を設定する」

### お願い 無線 LAN を使用するにあたって

- 無線 LAN の無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線 LAN は無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 3-5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
- 本製品の無線 LAN を使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

## 2 無線LANネットワークの種類

無線LANネットワークには、次のような機能があります。

- 無線LANステーション同士を直接ワイヤレス接続する

参照 → 「本項 2-ピア・ツー・ピアワークグループ」

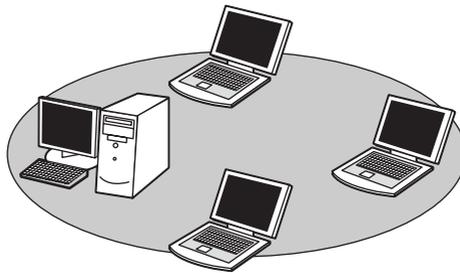
- 無線LANアクセスポイント経由で、インターネットやその他の無線LANステーションに接続する

参照 → 「本項 2-インフラストラクチャネットワーク」

### ピア・ツー・ピアワークグループ

無線LANアクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office (SOHO) など）で一時的なネットワークを構築する方法です。ピア・ツー・ピアワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。ステーション同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような「ファイルとプリンタの共有」などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。



ピア・ツー・ピアワークグループでネットワークを構築するには、設定が必要です。

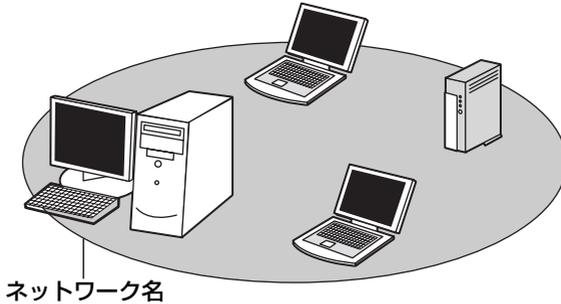
参照 → ピア・ツー・ピアワークグループの設定について 「本項 3 基本設定」

## インフラストラクチャネットワーク

無線LANアクセスポイントを使用して、バックボーンとなるネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線LAN機器でアクセスできる方法です。LANのバックボーンネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

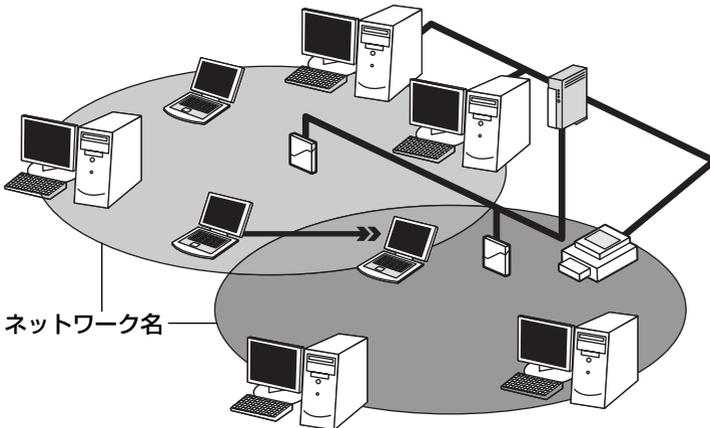
### 【スタンドアロンネットワーク】

無線LANアクセスポイントのみで構築したネットワークです。



### 【インフラストラクチャネットワーク】

無線LANアクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込み、既存の有線ネットワークをバックボーンネットワークとするネットワークです。



どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。

参照 → ネットワーク接続のための設定について「本項 3 基本設定」

### 3 基本設定

無線 LAN ネットワークに接続するには、接続するネットワークに応じた設定が必要です。

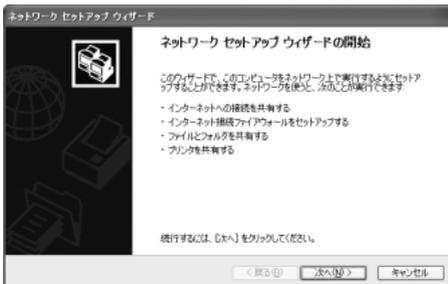
Windows XPは、標準で無線 LAN ネットワークに対応しています。

#### ネットワーク設定の方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[  ネットワークとインターネット接続 ] をクリックする
- 2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

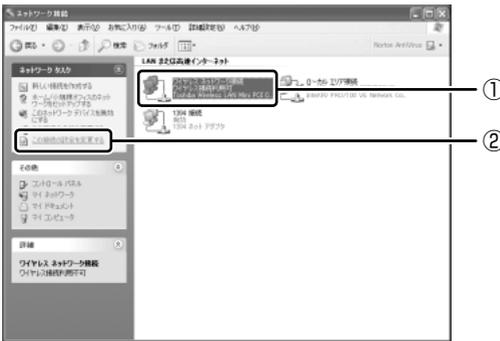


## 4 詳細設定

無線LANは、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面で行います。

### プロパティ画面の表示

- 1 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- 2 [ネットワークタスク] の [ネットワーク接続を表示する] をクリックする  
[ネットワーク接続] 画面が表示されます。
- 3 [ワイヤレスネットワーク接続] を選択し①、[ネットワークタスク] の [この接続の設定を変更する] をクリックする②



[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面が表示されます。



設定を変更したあと、[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

## WEP 機能を設定する

WEP (Wired Equivalent Privacy) とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEPでの暗号化には152ビット、128ビット、64ビットの3種類があり、プロパティ画面で設定できます。

### 1 [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面を開く

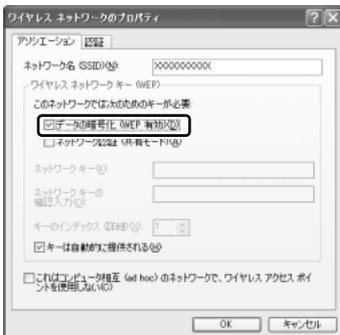
参照 → 「本項 4- プロパティ画面の表示」

### 2 [ワイヤレスネットワーク] タブの [利用できるネットワーク] でネットワーク名をクリックし①、[構成] ボタンをクリックする②



[ワイヤレスネットワークのプロパティ] 画面が表示されます。

### 3 [データの暗号化 (WEP 有効)] をチェックする



## 4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- ネットワークキーが自動的に提供される場合  
[キーは自動的に提供される] がチェックされていることを確認する
- ネットワークキーが自動的に提供されない場合
  - ① [キーは自動的に提供される] のチェックをはずす
  - ② [ネットワークキー] と [ネットワークキーの確認入力] にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

セキュリティレベル	文字の種類と文字数	
	半角英数文字	16進数
高 (152ビット)	16文字	32文字
中 (128) ビット	13文字	26文字
低 (64ビット)	5文字	10文字

ネットワークキーは「\*\*\*\* (アスタリスク)」で表示されます。

## 5 [OK] ボタンをクリックする

手順4で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう1度手順4からやり直してください。

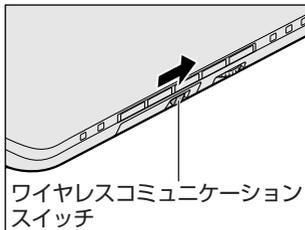
## 5 無線LANを使う

ここでは、ネットワークに接続している他のパソコンの確認について説明します。

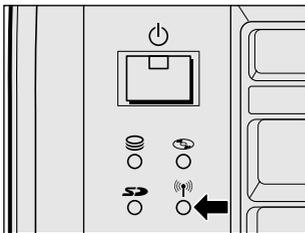
### 警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（左側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。  
また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

### 1 本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (無線LAN) LED が点灯します。



無線 LAN 機能が起動します。

無線 LAN 機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。

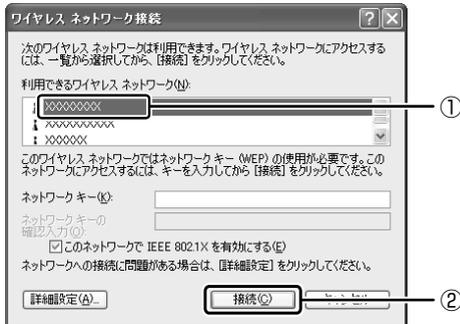
利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

### 2 [ワイヤレスネットワーク接続] アイコン (無線LAN) を右クリックし、表示されたメニューから [利用できるワイヤレスネットワークの表示] をクリックする

[ワイヤレスネットワーク接続] 画面が表示されます。

### 3 【利用できるワイヤレスネットワーク】の使いたいネットワークを選択し①、【接続】ボタンをクリックする②

WEP 機能を設定しているネットワークに接続するときは【ネットワークキー】にネットワークキーを入力し、【接続】ボタンをクリックしてください。



接続できると、通知領域に【ワイヤレスネットワーク接続 に接続しました】とメッセージが表示されます。

### 4 【スタート】 → 【マイコンピュータ】を開き、【その他】の【マイネットワーク】をクリックする

### 5 【ネットワークタスク】の【ワークグループのコンピュータを表示する】をクリックする

無線 LAN でつながれた、他のパソコンなどのデバイスが表示されます。

#### 役立つ 操作集

#### 通信状態を確認する

【ワイヤレスネットワーク接続】アイコンをクリックすると【ワイヤレスネットワーク接続の状態】画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

#### ヘルプの起動

無線 LAN の詳しい情報は『ヘルプとサポート』を参照してください。  
《サイバーサポート》でも検索できます。

### 3 ネットワーク設定に便利な機能

本製品に用意されている「ConfigFree」<sup>コンフィグフリー</sup>を使うと、次のようなネットワーク設定に便利な機能が使えます。

- ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示します。
- 自宅やオフィスなどのネットワーク設定をプロファイルとして登録しておけば、プロファイルを選択するだけでネットワーク設定やネットワークデバイスを切り替えられます。
- 有線 LAN ケーブルが抜かれたときに、自動で無線 LAN に切り替えます。
- 無線 LAN アクセスポイントのネットワーク名 (SSID) に接続すると、そのネットワークで作成されていたプロファイルに自動的に切り替わります。
- 近隣で使われている無線 LAN デバイスの SSID を検出し、信号の強度に応じて仮想のマップ上に表示します。

など

他にも便利な機能が色々用意されています。

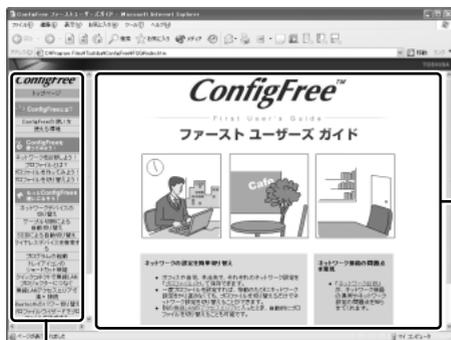
詳細については『ファーストユーザーズガイド』をご覧ください。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

#### ファーストユーザーズガイドの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree ファーストユーザーズガイド] をクリックする「ファーストユーザーズガイド」が表示されます。

左側に主な目次が並んでいますので、目的の項目をクリックすると右側に説明が表示されます。



説明が表示されます。

—主な目次です。

## 「ConfigFree」の起動方法

購入時の状態では、Windows を起動すると通知領域に「ConfigFree」のアイコン (  ) が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

### 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree] をクリックする

[ConfigFree (ネットワーク診断)] 画面が表示されます。

[タスクトレイに常駐する] をチェックすると、通知領域にアイコン (  ) が表示されます。

「ConfigFree」を起動したときは、「ConfigFree」の説明画面 (OverView) が表示されます。以降必要のない場合は、[次回から表示しない] をチェックし、[閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

「ConfigFree」の詳細については、ファーストユーザーズガイドまたはヘルプを確認してください。

## ヘルプの起動方法

### 1 「ConfigFree」を起動して、表示された画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする

[ConfigFree ヘルプ] 画面が表示されます。

## 2 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

### お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

### 1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムで使用できる国／地域については、「付録2 技術基準適合について」を参照してください。

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用するすると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

### 1 設定方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [Modem Region Select] をクリックする

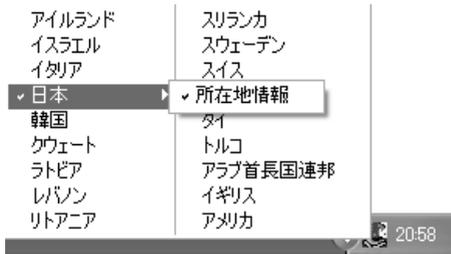
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン (  ) が通知領域に表示されます。



## 2 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン ( ) をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



## 3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。

新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

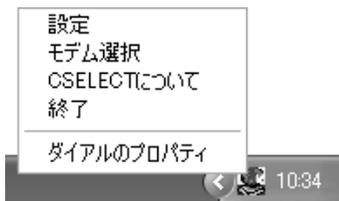
[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。

選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

## 2 その他の設定

### 1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン ( ) を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



## 【 設定 】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。
地域選択後に自動的にダイアルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

## 【 モデム選択 】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

## 【 ダイアルのプロパティ 】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

## 2章

# 周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

---

1	周辺機器について	28
2	PC カードを接続する	30
3	USB 対応機器を接続する	33
4	テレビを接続する	35
5	外部ディスプレイを接続する	41
6	プリンタを接続する	43
7	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	45
8	その他の機器を接続する	47
9	メモリを増設する	50

# 1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器については、それぞれの機器に付属の説明書もあわせてお読みください。周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- PC カード
- モデム（本製品では内蔵）
- スキャナ
- フロッピーディスクドライブ
- マウス
- デジタルカメラ
- 増設メモリ

 参照 周辺機器の接続場所は『使ってみよう 1 章 1 各部の名前』

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

## お願い 取り付け／取りはずしにあたって

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサージョンに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサージョンとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。

- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

## 1 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

### 1 ドライバをインストールする

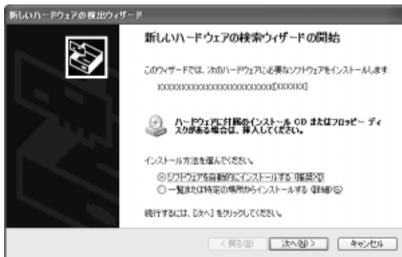
周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

#### 【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】

Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。

周辺機器を接続すると Windows がドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかると、自動的にインストールを開始します。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



#### 【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】

[ハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

[ハードウェアの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

## 2 PCカードを接続する

目的に合わせたPCカードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PCカードには、次のようなものがあります。

- ISDNカード
- SCSI<sup>スキャシー</sup>カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

### 1) PCカードを使う前に

本製品は、PC Card Standard 準拠のTYPE II対応のカード（CardBus対応カードも含む）を使用できます。

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

使用しているPCカードがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

#### お願い

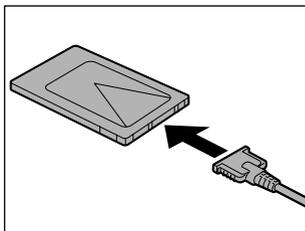
- ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

## 2) PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

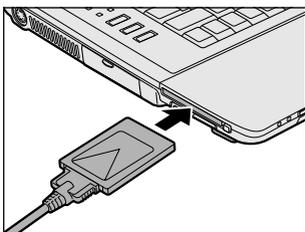
### 1 取り付け

#### 1 PCカードにケーブルを付ける



SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

#### 2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

### 2 取りはずし

#### お願い

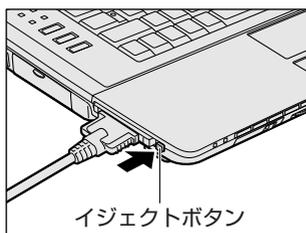
取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

#### 1 PCカードの使用を停止する

- ① 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン (  ) をクリックする

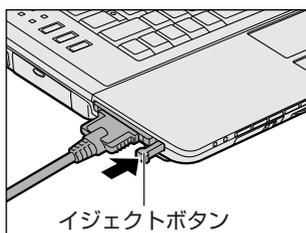
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン (  ) をクリックする

## 2 イジェクトボタンを押す



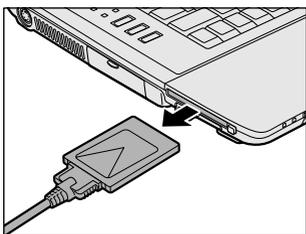
イジェクトボタンが出てきます。

## 3 もう 1 度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。  
カードが少し出てきます。

## 4 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。  
故障するおそれがあります。  
熱くないことを確認してから行ってください。

## 5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

# 3 USB 対応機器を接続する

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

本製品の USB コネクタには USB2.0 対応機器と USB1.1 対応機器を取り付けることができます。

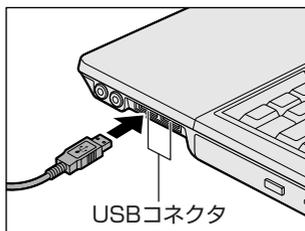
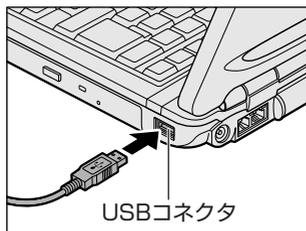
USB 対応機器の詳細については、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

## お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直るか、パソコンを再起動してください。

## 1 取り付け

- 1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む  
プラグの向きを確認して差し込んでください。



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む  
この手順が必要ない機器もあります。

## 2 取りはずし

### お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

### 1 USB対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン (  ) をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン (  ) をクリックする

### 2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

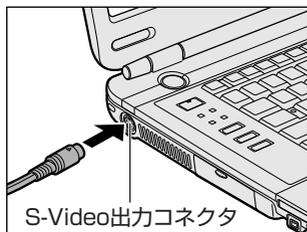
# 4 テレビを接続する

本製品の<sup>エスビデオ</sup>S-Video出力コネクタとテレビをS端子ケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

接続するS端子ケーブルは、市販の4ピンコネクタのケーブルを使用してください。

## 1 取り付け

- 1 S端子ケーブルのプラグをパソコン本体のS-Video出力コネクタに差し込む



- 2 S端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビのS1/S2映像入力端子に差し込む

音声はパソコンのスピーカで聞か、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

## 2 テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

### お願い

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  - ・データの読み出しや書き込みをしている間
  - ・通信を行っている間

### 【方法1ー [画面のプロパティ] で設定する】

- 1 [コントロールパネル] を開き、[  デスクトップの表示とテーマ ] をクリックする

## 2 [画面] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

## 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする

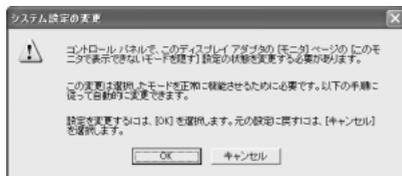
## 4 [GeForce FX Go5200 32M/64M] タブで次のいずれかに設定する



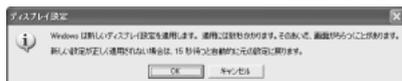
### 【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [[はい] ボタンをクリックしてください。

#### ● [システム設定の変更] 画面



#### ● [ディスプレイ設定] 画面



#### ● [ディスプレイ設定の確認] 画面



**【設定方法】****●内部液晶ディスプレイだけに表示**

- ① [nView モード] で [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [デジタル ディスプレイ] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

**●内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示**

- ① [nView モード] で [クローン] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [ディスプレイ] で [nView ディスプレイ 2 : アナログディスプレイ] を選択する
- ③ [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [TV] を選択する
- ④ [適用] ボタンをクリックする
- ⑤ [ディスプレイ] で [nView ディスプレイ 2 : TV NTSC-M] を選択する  
選択項目の「TV NTSC-M」の部分は、前回設定した内容によって表示が異なります。
- ⑥ [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [詳細] を選択する
- ⑦ テレビの形式を選択する  
国内のテレビの場合は [NTSC-J] です。
- ⑧ [OK] ボタンをクリックする
- ⑨ [(マルチモニター) と…] 画面で [OK] ボタンをクリックする

**●テレビだけに表示**

- ① [nView] モードで [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [TV] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

**5 【画面のプロパティ】 画面で [OK] ボタンをクリックする**

## 【方法2 - (Fn) + (F5) キーを使う】

(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn) キーを離すと表示装置が切り替わります。

### ●表示装置をLCD（内部液晶ディスプレイ）に戻す方法

現在の表示装置がLCD（内部液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、(Fn) + (F5) キーを3秒以上押し続けてください。

表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指を離してから、(Fn) + (F5) キーを3秒以上押し続けてください。



- LCD ..... 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD / CRT ..... 内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
- CRT ..... 外部ディスプレイだけに表示  
外部ディスプレイを接続している／していないに関わらず、外部ディスプレイだけに表示されます。  
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD / TV ..... 内部液晶ディスプレイとテレビに同時表示
- TV ..... テレビだけに表示  
テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。  
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは [Windows の ログオフ] 画面で [ログオフ] を選択して切り替えてください。[ユーザーの切り替え] で切り替えた場合は、(Fn) + (F5) キーで表示装置を切り替えられません。

参照 → ユーザアカウントの切り替え

『さあ始めよう 6章 2-② ユーザアカウントを切り替える』

### 3 動画をテレビまたは外部ディスプレイに表示する

表示装置を内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示、または内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に設定している場合、動画をテレビや外部ディスプレイに表示させるには、次の設定を行います。

- 1 **【コントロールパネル】を開き、[デスクトップの表示とテーマ]をクリックする**
- 2 **[画面]をクリックする**  
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 **【設定】タブで【詳細設定】ボタンをクリックする**
- 4 **【GeForce FX Go5200 32M/64M】タブで【GeForce FX Go5200 32M/64M】ボタンをクリックする**



- 5 **表示されるメニューから【オーバーレイコントロール】をクリックする**
- 6 **【フルスクリーンデバイス】で【プライマリディスプレイ】または【セカンダリディスプレイ】を選択する**  
[プライマリディスプレイ] または [セカンダリディスプレイ] を選択すると、テレビまたは外部ディスプレイに動画を表示できます。  
[プライマリディスプレイ] を選択すると、内部液晶ディスプレイに動画がフルスクリーン表示されます。テレビまたは外部ディスプレイにはウィンドウ表示されます。  
[セカンダリディスプレイ] を選択すると、テレビまたは外部ディスプレイに動画がフルスクリーン表示されます。内部液晶ディスプレイにはウィンドウ表示されます。

[無効] を選択すると、テレビまたは外部ディスプレイに動画は表示されません。



7 [OK] ボタンをクリックする

8 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

#### 4 取りはずし

1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるS端子ケーブルを抜く

# 5 外部ディスプレイを接続する

フルサイズ

RGB コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイに表示させることができます。

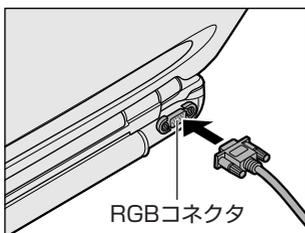
パソコンの電源を切ってから接続してください。

## メモ

- 使用可能なディスプレイは解像度により異なります。解像度にあったディスプレイを接続してください。

## 1 接続

### 1 外部ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む



外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを抜きます。

## 2 表示装置を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

「東芝省電力」で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

### 【切り替え方法】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の「方法 1」や「方法 2」を参考にしてください。「方法 1」を参考にする場合は、[GeForce FX Go5200 32M/64M] タブの [デバイス設定] で [出力デバイスの選択] → [アナログ ディスプレイ] を選択してください。

参照 → 表示装置の切り替えについて「本章 4-2 テレビに表示する」

また、内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に設定した場合、動画を外部ディスプレイに表示するには設定が必要です。

 参照 外部ディスプレイに動画を表示する  
「本章 4-3 動画をテレビまたは外部ディスプレイに表示する」

#### メモ

- 外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、外部ディスプレイ／内部ディスプレイとも内部液晶ディスプレイの色数／解像度で表示されます。

### 3 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

 参照 ビデオモードについて「付録 1-3 サポートしているビデオモード」

# 6 プリンタを接続する

パラレルコネクタにパラレルインタフェースを持つプリンタを接続すると、印刷ができます。また、USB コネクタに USB 対応のプリンタを、アイリンク アイトロUBLEイーイサシキョウモン i.LINK (IEEE 1394) コネクタに i.LINK (IEEE 1394) 対応のプリンタを接続することもできます。接続や設定についての詳細は『プリンタに付属の説明書』を確認してください。

参照 → USB 対応プリンタについて「本章 3 USB 対応機器を接続する」

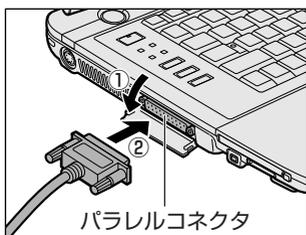
参照 → i.LINK (IEEE 1394) 対応プリンタについて  
「本章 7 i.LINK (IEEE 1394) 対応機器を接続する」

プリンタの取り付け／取りはずしと、設定方法について説明します。

## 1 取り付け

パラレルコネクタに接続する場合、プリンタとパソコンの電源を切った状態で接続してください。

- 1 コネクタカバーを開き①、プリンタケーブルのプラグをパソコン本体のパラレルコネクタに差し込む②



- 2 プリンタケーブルのもう一方のプラグをプリンタに差し込む  
プリンタの電源を入れてから、パソコンの電源を入れます。

## 2 プリンタの設定

### 【ドライバをインストールする】

プリンタを使うには、ドライバのインストールが必要です。

ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、プリンタに添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

プラグアンドプレイに対応している場合は、初めてプリンタを接続すると [プリンタの追加ウィザード] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

プラグアンドプレイに対応していない場合は [プリンタの追加ウィザード] を起動するか、『プリンタに付属の説明書』を読んで、インストールを行ってください。

---

[プリンタの追加ウィザード]は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [プリンタを追加する] をクリックする

### 【プリンタポートモードの設定】

使用するプリンタに合わせてプリンタモードの設定が必要です。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝HWセットアップ] をクリックする
- 3 [プリンタ] タブの [プリンタポートモード] で、使用するプリンタに合ったモードに設定する
  - ECP (標準値) ..... ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは、ECP に設定します。
  - 双方向 ..... 双方向に設定します。一部のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインタフェース対応機器を使用する場合に設定します。
- 4 [OK] ボタンをクリックする

## 3 取りはずし

- 1 パソコン本体とプリンタに差し込んであるプリンタケーブルを抜く  
使用しているプリンタに合わせて、プリンタの電源を切ってください。
- 2 使っていないときはコネクタカバーを閉める  
コネクタカバーを閉めるときは、カバーの両端を押して閉めてください。

# 7 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

アイリンク アイトリプルイーチサンキョウモン

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応プリンタ など

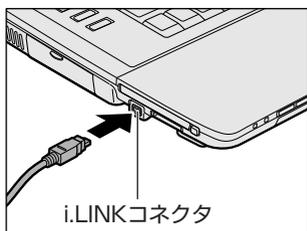
i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

## お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- デジタルビデオカメラなどから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取り付けなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

## 1 取り付け

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体のi.LINK コネクタに差し込む  
プラグの向きを確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

## 2 取りはずし

- 1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン (  ) をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン (  ) をクリックする

\* 通知領域にこのアイコンが表示されない i.LINK 対応機器は、手順 1 は必要ありません。

- 2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

## 3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、《サイバーサポート》を確認してください。

- 1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

# 8 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

## 1 マイクロホン

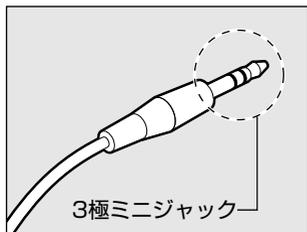
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

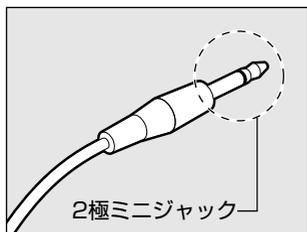
参照 → サウンド機能について『使ってみよう 1 章 8 サウンド機能』

### 1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは 3.5mm φ 3 極ミニジャックタイプが使用できます。



3.5mm φ 2 極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

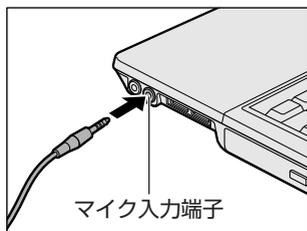
音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

本製品には、音声認識ソフト「LaLaVoice<sup>ララボイス</sup>」が用意されています。

参照 → 「LaLaVoice」について《サイバーサポート》

## 2 接続

### 1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

## 2 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm  $\phi$  ステレオミニジャックタイプを使用してください。

### お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

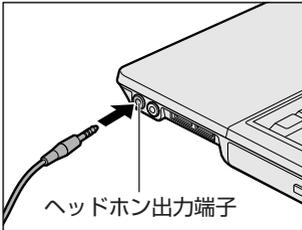
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

## 1 接続

### 1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

# 9 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットAはすでに256MBのメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットBに取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて最大2GBまでです。

## ⚠ 警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

## ⚠ 注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

## お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをゆるめる際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、警告音（ビーブ音）が数回鳴ります。

## 静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

## 1 取り付け

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

参照▶ 「本節 2 取りはずし」

### 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

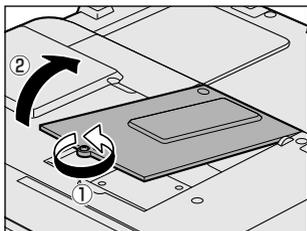
参照▶ 電源の切りかた『さあ始めよう 1 章 4 電源を切る／入れる』

### 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

### 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照▶ バッテリーパックの取りはずし「3 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

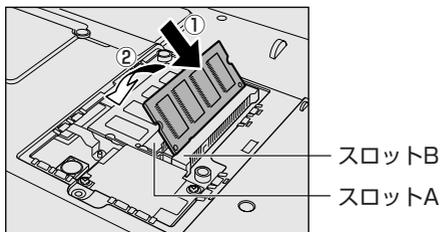
### 4 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ①、カバーをはずす②



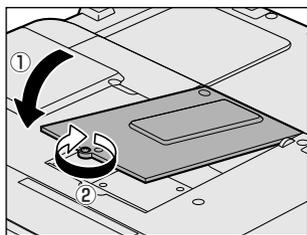
## 5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。



## 6 増設メモリカバーをつけて①、手順4でゆるめたネジ1本をとめる② 増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。



## 7 バッテリーパックを取り付ける

**参照** ▶ バッテリーパックの取り付け「3章 1-③ バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

**参照** ▶ メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量の確認」

## 2 取りはずし

### 1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照 → 電源の切りかた『さあ始めよう 1章 4 電源を切る／入れる』

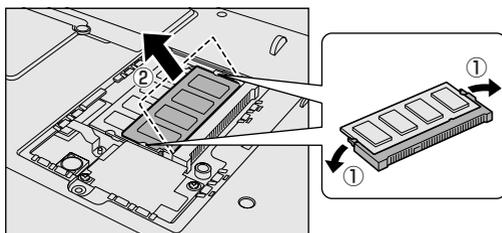
### 2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

### 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照 → バッテリーパックの取りはずし「3章 1-③ バッテリーパックを交換する」

### 4 増設メモリカバーのネジ1本をゆるめ、カバーをはずす

### 5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②



斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

### 6 増設メモリカバーをつけて、手順4でゆるめたネジ1本をとめる 増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

### 7 バッテリーパックを取り付ける

参照 → バッテリーパックの取り付け「3章 1-③ バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

---

### 3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

#### 【 確認方法 】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報] タブで [メモリ] の数値を確認する



「東芝 PC 診断ツール」について

『困ったときは 1 章 3-① パソコンの情報を見る／状態を診断する』

## 3章

# バッテリー駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリー使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

---

1	バッテリーについて	56
2	省電力の設定をする	64
3	パソコンの使用を中断する／電源を切る	65

# 1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。

本製品を初めて使用するときは、バッテリーを充電してから使用してください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

## 危険

- バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー(TOSHIBA バッテリーパック:PABAS043)をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。

## 警告

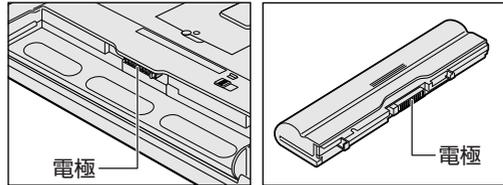
- 別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。  
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

## 注意

- バッテリーパックの充電温度範囲内（5～35℃）で充電してください。  
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

## お願い

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリーを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、1度全バッテリーを充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

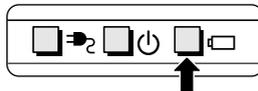


## 1) バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

## 1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。



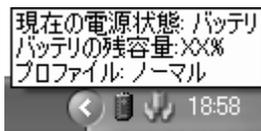
Battery LEDは次の状態を示しています。

青	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要 <small>参照</small> ▶ バッテリーの充電について「本節 ② バッテリーを充電する」
消灯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バッテリーが接続されていない</li> <li>・ ACアダプタが接続されていない</li> <li>・ バッテリー異常</li> </ul> 異常の場合は、購入店または近くの保守サービスに連絡してください。

## 2 通知領域の [省電力] アイコンで確認する

通知領域の [省電力] アイコン (  ) の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用しているプロファイル名や、使用している電源の種類が表示されます。



**参照** 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヶ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LED や [省電力] アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

**参照** 再充電について「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

## 3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する (バッテリーの減少を示しています)
- バッテリーのアラームが動作する

「東芝省電力」の [アクション設定] タブの [アラーム設定] で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起っても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

## 時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、ACアダプタを接続し電源を入れているとき（電源 ON 時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

### 【充電完了までの時間】

状態	時計用バッテリー
電源 ON (Power  LED が青色に点灯)	8 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

## 2) バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

### お願い

バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは 5 ~ 35℃の室温で充電してください。

### 1 充電方法

#### 1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN  LED が青色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFF にかかわらずフル充電になるまで充電されます。

## 2 Battery LED が青色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

### メモ

- パソコン本体を長時間で使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

### 【 充電完了までの時間 】

バッテリーパックは消耗品です。バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

状態	充電時間
電源 ON	約 3.3 ～ 4.3 時間
電源 OFF	約 2.2 時間

### 【 使用できる時間 】

バッテリーパックは消耗品です。バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

測定法	JEITA 測定法 1.0
動作時間	約 4.0 時間

### 【使っていないときの充電保持時間】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。次の保持時間は、フル充電した状態で電源を切った場合の目安にしてください。

パソコン本体の状態	保持時間
電源 OFF または休止状態	約 22 日
スタンバイ	約 5 日

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

## 2 バッテリーを長持ちさせるには

- AC アダプタをコンセントに接続したままでパソコンを 8 時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにも AC アダプタをコンセントからはずしてください。
  - 1ヶ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
  - 1ヶ月に 1 度は、AC アダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。
- その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

### 1 パソコン本体の電源を切る

### 2 パソコン本体から AC アダプタをはずし、パソコンの電源を入れる 電源が入らない場合は手順 4 へ進んでください。

### 3 5分程度バッテリー駆動を行う

この間、Battery  LED が点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐに AC アダプタを接続し、手順 4 へ進みます。

### 4 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ DC IN LED が青色に点灯して Battery LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

### 5 Battery LED が青色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。DC IN  LED が消灯している場合は、通電していません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

## 【 バッテリーを節約する 】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする **参照**▶ 「本章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく  
**参照**▶ 「本章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力のプロファイルを設定する **参照**▶ 「本章 2 省電力の設定をする」

## 3) バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。

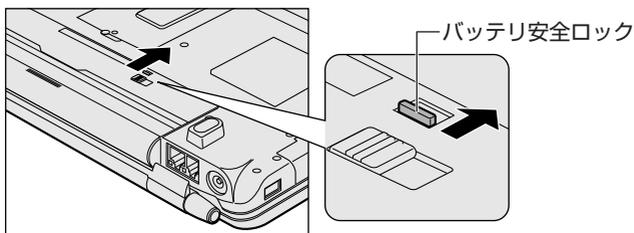
バッテリーパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

### お願い

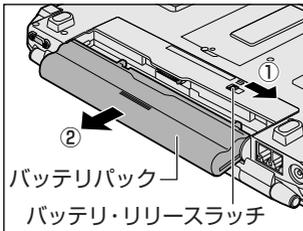
キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

## 1 取りはずし／取り付け

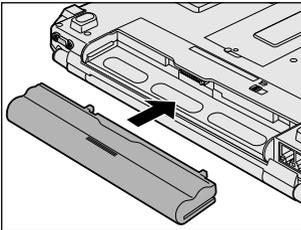
- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 4 **バッテリー安全ロックを矢印の方向に移動する**  
ロックが解除され、バッテリー・リリースラッチがスライドできるようになります。



- 5 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリーパックを取りはずす②

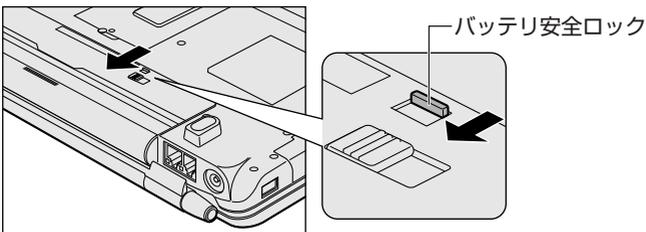


- 6 交換するバッテリーパックを、「カチッ」と音がするまで静かに差し込む  
バッテリー・リリースラッチが自動的にスライドして、「カチッ」という音がします。



- 7 バッテリー安全ロックを矢印の方向に移動する

バッテリーパックがはずれないように、バッテリー安全ロックを必ずロック位置  にしてください。



## 2 省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

省電力の設定をまとめたものをプロファイルといいます。使用環境ごとに設定されたプロファイルがあらかじめ用意されていますので、使用環境にあわせてプロファイルを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更できます。プロファイルの設定を変更したり、新しくプロファイルを追加することもできます。

### 1 東芝省電力

省電力の設定は「東芝省電力」から行います。

ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありませんが、ディスプレイの明るさなどはお好みにあわせて設定してください。

#### 1 東芝省電力の起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [東芝省電力] をクリックする  
[東芝省電力のプロパティ] 画面が表示されます。



使い方については、ヘルプをご覧ください。

#### ヘルプの起動方法

- 1 「東芝省電力」を起動後、画面右上の **?** をクリックする  
ポインタが **?** に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする  
ヘルプの該当するページが表示されます。

# 3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

## お願い 操作にあたって

- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スタンバイ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
  - ・ スタンバイ中にメモリを抜き差しすること
  - ・ スタンバイ中にバッテリーパックをはずすことまた、スタンバイ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押しっぱなし電源を切った後、再度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailureで起動します）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや増設メモリの取り付け/取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。
- スタンバイまたは休止状態を実行する場合は、DVD-RAMメディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。書き込み途中のデータがある状態でスタンバイまたは休止状態を実行した場合、データが正しく書き込まれないことがあります。DVD-RAMメディアを取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

# 1) スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうと保存されていないデータは消失するので、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

## 1 スタンバイの実行方法

### 【方法 1ー【スタート】メニューから実行する】

- 1 【スタート】 ボタンをクリックし①、【終了オプション】 をクリックする②



- 2 【スタンバイ】 をクリックする

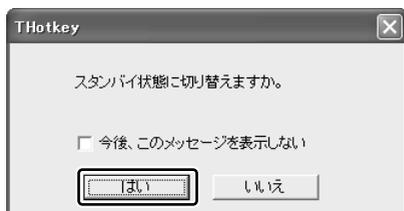


メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power  LED がオレンジ点滅しているか確認する

## 【方法2— (Fn) + (F3) キーを使う】

- 1 (Fn) + (F3) キーを押す
- 2 [はい] ボタンをクリックする



[今後、このメッセージを表示しない] をチェック (  ) して [はい] ボタンをクリックすると、次回からこの画面は表示されません。

- 3 Power  LED がオレンジ点滅しているか確認する

## 2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。

購入時の設定では、バッテリーが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリー駆動 (AC アダプタを接続しない状態) で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

### 1 休止状態の実行方法

## 【方法1— [スタート] メニューから実行する】

#### 1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [電源オプション] をクリックする
- ③ [休止状態] タブで [休止状態を有効にする] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする

休止状態が有効になります。

- 2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 3 (Shift) キーを押したまま [休止状態] をクリックする

(Shift) キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



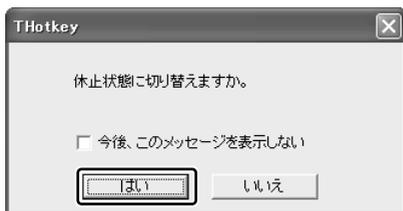
## 【方法2— (Fn) + (F4) キーを使う】

- 1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
  - ② [電源オプション] をクリックする
  - ③ [休止状態] タブで [休止状態を有効にする] をチェックする
  - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

- 2 (Fn) + (F4) キーを押す

- 3 [はい] ボタンをクリックする



[今後、このメッセージを表示しない] をチェック (  ) して [はい] ボタンをクリックすると、次回からこの画面は表示されません。

## 3 簡単に電源を切る / パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ / 休止状態にすることができます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されています。解除した場合は、「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

### 1 電源スイッチを押す

#### 1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [アクション設定] タブの [電源ボタンを押したとき] で [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [シャットダウン] のいずれかを選択する [何もしない] に設定すると、特に変化はありません。
- ④ [OK] ボタンをクリックする

#### 2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順 1 の③で [入力を求める] を選択したときは、[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

### 2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じることによって [スタンバイ] [休止状態] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

#### 1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [アクション設定] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] のいずれかを選択する [何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
- ④ [OK] ボタンをクリックする

---

## 2 ディスプレイを閉じる

設定した状態へ移行します。

[スタンバイ] [休止状態] に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

## 4章

# アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

- 
- 1 アプリケーションを追加（インストール）する 72
  - 2 アプリケーションを削除（アンインストール）する 73

# 1 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。

## お願い

- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

アプリケーションのインストールは、コンピュータの管理者アカウントで行います。[プログラムの追加と削除] からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で [プログラムの追加と削除] を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合があります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

## 1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたはCD-ROMなどをセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[  プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 [プログラムの追加] ボタン (  ) をクリックする
- 4 [CDまたはフロッピー] ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

## 2 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーションDVD-ROMから、再インストールして使用することができます。

➡ 参照 再インストールについて

『困ったときは 4章 3 アプリケーションを再インストールする』

アプリケーションを削除する方法を説明します。

アプリケーションの削除は、コンピュータの管理者アカウントで行います。

アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

### メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

## 1 操作手順

- 1 [コントロールパネル] を開き、[  プログラムの追加と削除 ] をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除] または [変更と削除] ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。



## 5 章

# システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

- 
- 1 システム環境の変更とは 76
  - 2 東芝HW セットアップを使う 77
  - 3 パスワードセキュリティ 82

# 1 システム環境の変更とは

---

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティを使用します。

Windows 上のユーティリティには、「東芝省電力」、「東芝HW セットアップ」、「東芝パスワードユーティリティ」などがあります。

 参照 ▶ 東芝省電力について「3章 2 省電力の設定をする」

本章では、「東芝HW セットアップ」と「東芝パスワードユーティリティ」について説明します。

## 2 東芝 HW セットアップを使う

「東芝 HW セットアップ」を使って、ハードウェア<sup>ハードウェア</sup>の設定を変更できます。複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

### 1 起動方法

- 1 【コントロールパネル】を開き、[  プリンタとその他のハードウェア ] をクリックする
- 2 [  東芝 HW セットアップ ] をクリックする

### 2 使用方法

#### ■ 【全般】 タブ ■

BIOS セットアップのバージョンと日付などを表示します。



#### 【標準設定】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」の項目をご購入時の設定状態に戻します。

#### 【バージョン情報】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」のバージョン情報を表示します。

## ■ 【プリンタ】 タブ ■

プリンタなど、パラレルポートに接続する機器の設定をします。使用するプリンタ、またはその他の機器にあわせて設定してください。



### 【プリンタポートモード】

- ECP（標準値）  
ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは ECP に設定します。
- 双方向  
双方向に設定します。一部のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインタフェース機器を使用するのに設定します。

参照 ▶ プリンタの設定「2章 6 プリンタを接続する」

## ■ 【ディスプレイ】 タブ ■

起動時の Windows ロゴを表示する表示装置を選択します。



### 【起動時の表示装置】

- 自動選択（標準値）  
システム起動時に、外部ディスプレイが接続されている場合は、外部ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部ディスプレイが接続されていない場合は、内部液晶ディスプレイだけに表示します。
- 内部 LCD/ アナログ RGB 同時表示  
システム起動時に、外部ディスプレイ（アナログ RGB）が接続されている場合は、内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの両方に表示します。

参照 ▶ 外部ディスプレイの接続「2章 5 外部ディスプレイを接続する」

Windows 起動後は、前回電源を切る前の表示装置が存在すればその表示装置に表示します。前回電源を切る前の表示装置が存在しない場合は内部液晶ディスプレイに表示されます。

## ■ [CPU] タブ ■

CPUに関する設定をします。



### 【CPU周波数の設定】

#### ● ダイナミック切替モード（標準値）

CPUの消費電力・周波数切り替え機能を有効にし、「東芝省電力」でCPU周波数を設定できるようにします。

#### ● 常時高速モード

CPUの消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、常にCPUを加速した状態にします。「東芝省電力」でCPU周波数の設定はできません。

#### ● 常時標準モード

CPUの消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、CPUを通常の状態で使用します。「東芝省電力」でCPU周波数の設定はできません。

## ■ [OSの起動] タブ ■

OSの起動に関する設定をします。



## 【 OSの起動 】

システムを起動する装置の優先順位を設定します。

通常は [HDD → FDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

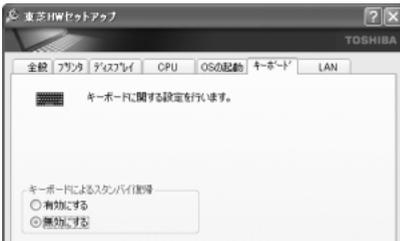
[LAN] タブの [内蔵LAN] の設定内容によっては、次にパソコンを起動したときに「LAN」の優先順位が自動的に最下位に変更されることがあります。

## 【 ネットワークブートプロトコル 】

ネットワークからの起動について設定します。

- PXE（標準値）  
PXE プロトコルに設定します。
- RPL  
RPL プロトコルに設定します。

## ■ [キーボード] タブ ■



## 【 キーボードによるスタンバイ復帰 】

この機能を有効にすると、スタンバイ時にどれかキーを押して復帰させることができます。

## ■ [LAN] タブ ■

LAN 機能に関する設定をします。



### 【LANのウェイクアップ】

LANのウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。

LANのウェイクアップ機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。

### 【内蔵LAN】

内蔵LANを使用するかどうかを設定します。

## ヘルプの起動方法

- 1 「東芝HWセットアップ」を起動後、画面右上の  をクリックする  
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

# 3 パスワードセキュリティ

本製品では、パスワードを登録できます。

- Windows のログオンパスワード

Windows にログオンするとき

インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーン

セーバを解除するとき

参照 ▶ ログオンパスワード

『さあ始めよう 6 章 1 Windows ログオンパスワード』

参照 ▶ インスタントセキュリティ機能

『使ってみよう 1 章 3-③ - (Fn)キーを使った特殊機能キー』

- ユーザパスワード、スーパーバイザパスワード

電源を入れたときや「東芝パスワードユーティリティ」を使用するとき

通常はユーザパスワードを登録してください。

参照 ▶ ユーザパスワード「本節 ① ユーザパスワード」

スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、「東芝 HW セットアップ」の設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。

この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。

参照 ▶ スーパーバイザパスワード「本節 ② スーパーバイザパスワード」

ここでは、ユーザパスワード／スーパーバイザパスワードの登録方法とトークン<sup>\*1</sup>の作成方法について説明します。

<sup>\*1</sup> パスワードの代わりに使用できるSDメモ리카ードです。

パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

## お願い

パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

# 1 ユーザパスワード

ユーザパスワードの登録は、「東芝パスワードユーティリティ」を使用します。

## メモ

- ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードでは、違うパスワードを使用してください。

## 1 ユーザパスワードの登録

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [パスワードユーティリティ] をクリックする

2 [登録] ボタンをクリックする

[ユーザパスワードの登録] 画面が表示されます。

3 [入力] にパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「\*\*\*\* (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部 (半角)	- ! @ < > ; : , . (スペース)
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全角文字 (2バイト文字)</li> <li>・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ (全角/半角)、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など</li> <li>・ 記号の一部 (半角) 【例】   (バーチカルライン)、_ (アンダーバー)、¥ (エン) など</li> </ul>	

入力した文字に使用できない文字が含まれていた場合は警告メッセージが表示されます。

メッセージの内容に従って、もう1度パスワードを入力してください。

4 [確認入力] に手順3で入力したパスワードをもう1度入力する

## 5 [登録] ボタンをクリックする

パスワードが登録されます。

入力エラーのメッセージが表示された場合は、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じ、手順3から操作をやり直してください。

パスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。

このファイルをパスワードファイルと呼びます。パスワードファイルを保管しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。

## 6 パスワードファイルを作成する場合は [OK] ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

[OK] ボタンをクリックすると、[名前を付けて保存] 画面が表示されます。

## 7 パスワードファイルを作成する

パスワードファイルの保存先は、フロッピーディスクなどの外部記憶メディアを推奨します。あらかじめ用意しておいてください。

- ① メディアをセットする
- ② [保存する場所] で保存先を選択する
- ③ [ファイル名] にファイル名を入力する
- ④ [保存] ボタンをクリックする

## 8 必要に応じて、[パスワードの注釈] を入力する

[パスワードの注釈] にはパスワードのヒントとなる文字列を登録できます。登録すると、パソコンの電源を入れてパスワードの入力が必要なときに、登録した文字列が表示されます。

文字は1行につき最大40文字、最大5行目まで登録できます。この範囲外に入力した文字は登録できません。

使用できる文字列はユーザパスワードと同様です。

パスワード文字列そのものを登録しないでください。

## 9 [OK] ボタンをクリックする

### お願い

パスワードファイルを保存した外部記憶メディアは、安全な場所に保管してください。

## 【トークンの作成】

トークンとは、パスワードの代わりに使用することができるSDメモ리카ードです。トークンを作成するには、フォーマット済みのSDメモ리카ードが必要です。あらかじめ用意しておいてください。また、一部のフォーマット形式には対応していません。対応していないSDメモ리카ードをセットした場合は、警告メッセージが表示されます。その場合は、別のSDメモ리카ードを使用するか、「東芝SDメモ리카ードフォーマット」でフォーマットしてください。

 参照 SDメモ리카ードのフォーマット

『使ってみよう 1章 10-③-2 SDメモ리카ードのフォーマット』

トークンの作成は、パスワードを登録済みの場合のみ行えます。あらかじめパスワードを登録しておいてください。

- 1 SDメモ리카ードをセットする
- 2 「東芝パスワードユーティリティ」を起動し、[作成] ボタンをクリックする  
[ユーザトークンの作成] 画面が表示されます。
- 3 [SDカードのドライブ] でSDメモ리카ードのドライブを選択する
- 4 [作成] ボタンをクリックする
- 5 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする  
トークンが作成されます。
- 6 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

## 2 ユーザパスワードの削除

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [パスワードユーティリティ] をクリックする  
[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。  
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。

 参照 認証について「本項 4 ユーザパスワードの入力」

- 2 [削除] ボタンをクリックする  
[ユーザパスワードの削除] 画面が表示されます。
- 3 [パスワード] に、登録してあるパスワードを入力する  
トークンを使用する場合は、[トークンで認証] を選択し、[SDカードのドライブ] でトークンをセットしたドライブを選択してください。

- 4 **【削除】 ボタンをクリックする**
- 5 **表示されたメッセージの内容を確認し、【OK】 ボタンをクリックする**  
パスワードが削除されます。
- 6 **表示されたメッセージの内容を確認し、【OK】 ボタンをクリックする**

### **3 ユーザパスワードの変更**

- 1 **【スタート】 → 【すべてのプログラム】 → 【TOSHIBA】 → 【ユーティリティ】 → 【パスワードユーティリティ】 をクリックする**  
[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。  
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。  
 **参照** 認証について「本項 4 ユーザパスワードの入力」
- 2 **【変更】 ボタンをクリックする**  
[ユーザパスワードの変更] 画面が表示されます。
- 3 **【現在のパスワード】 に、登録してあるパスワードを入力する**  
トークンを使用する場合は、[トークンで認証] を選択し、[SDカードのドライブ] でトークンをセットしたドライブを選択してください。
- 4 **【新しいパスワード】 の【入力】 に新しいパスワードを入力する**
- 5 **【確認入力】 に手順4で入力したパスワードをもう1度入力する**
- 6 **【変更】 ボタンをクリックする**
- 7 **表示されたメッセージの内容を確認し、【OK】 ボタンをクリックする**  
エラーメッセージが表示された場合は内容を確認し、【OK】 ボタンをクリックして画面を閉じてください。  
エラーメッセージの内容が認証エラーの場合は手順3、確認入力エラーの場合は手順5から操作をやり直してください。
- 8 **パスワードファイルを作成する場合は【OK】 ボタンをクリックする**  
パスワードファイルを作成しない場合は【キャンセル】 ボタンをクリックしてください。  
パスワードファイルの作成方法は、「本項 1 ユーザパスワードの登録」の手順7を確認してください。

## 4 ユーザパスワードの入力

### 電源を入れたとき

ユーザパスワードを登録している場合、電源を入れると [Password] 画面が表示されます。

次の方法でパソコン本体を起動できます。

#### 【パスワードを入力する】

- 1 [Password] に登録したパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入カミス を 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

#### 【トークンを使う】

- 1 トークンをセットする

あらかじめトークンをセットしておいてから電源を入れると、自動的にパスワードが解除されます。

### 東芝パスワードユーティリティを起動したとき

ユーザパスワードを登録している場合、「東芝パスワードユーティリティ」を起動すると、認証を求める画面が表示されます。次の方法で認証を行います。

#### 【パスワードを入力する】

- 1 認証を求める画面が表示されたら、[パスワードで認証] を選択し、パスワードを入力する
- 2 [認証] ボタンをクリックする

#### 【トークンを使う】

- 1 認証を求める画面が表示されたら、トークンをセットする
- 2 [トークンで認証] を選択する  
[トークンで認証] が選択できない場合は、認証を求める画面を閉じ、もう 1 度表示させてください。
- 3 [SD カードのドライブ] でトークンをセットしたドライブを選択する

## 4 [認証] ボタンをクリックする

### パスワードを忘れてしまった場合

ユーザ/スーパーバイザパスワードを忘れてしまった場合は、次の方法で確認または解除してください。

- **パスワードファイルを確認する**  
電源を入れるときにパスワードが必要になった場合は、本機以外の機器で確認してください。
- **トークンを使用して登録したパスワードを解除する**

上記の方法でパスワードの確認または解除できなかった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。

パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できるもの）の提示が必要となります。

## 2) スーパーバイザパスワード

「東芝パスワードユーティリティ」で、スーパーバイザパスワードの登録や登録内容の変更ができます。

### メモ

- 先にユーザパスワードが登録されている場合は、スーパーバイザパスワードの登録はできません。スーパーバイザパスワードとユーザパスワードを両方登録する場合は、1度ユーザパスワードを削除し、スーパーバイザパスワードを登録してからもう1度ユーザパスワードを登録してください。
- スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うパスワードを使用してください。

### 起動方法

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥TOSPU.EXE」と入力する

### 3 [OK] ボタンをクリックする

[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。

パスワードを登録している場合はパスワードまたはトークンで認証を行ってください。

### 4 [スーパーバイザパスワード] タブをクリックする

## 操作方法

### 【登録、削除、変更】

スーパーバイザパスワードの登録、削除、変更などの設定方法は、「東芝パスワードユーティリティ」でのユーザパスワードの設定方法と同様です。

ユーザパスワードの設定を確認してください。

 参照 ユーザパスワード「本節 ① ユーザパスワード」

なお、スーパーバイザパスワードを削除すると、ユーザパスワードも同時に削除されます。

### 【一般ユーザの操作を制限する】

スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは「東芝HWセットアップ」の設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。

- 1 スーパーバイザパスワード設定用の「東芝パスワードユーティリティ」を起動する
- 2 [スーパーバイザパスワード] タブで [ユーザポリシー] の [変更] ボタンをクリックする  
[ユーザポリシーの設定] 画面が表示されます。
- 3 操作を許可する項目をチェックする
- 4 [設定] ボタンをクリックする



# 付録

本製品のハードウェア仕様や、技術基準適合などについて記しています。

- 
- 1 本製品の仕様 92
  - 2 技術基準適合について 99
  - 3 無線LANについて 113

# 1 本製品の仕様

## 1 製品仕様

機種		dynabook VX1シリーズ
プロセッサ	CPU	東芝PC診断ツールを参照
メモリ	ROM	512KB (フラッシュROM)、ACPI 1.0b、APM1.2、Plug and Play 1.0a
	RAM	標準：東芝PC診断ツールを参照 最大：2GB
	ビデオRAM	64MB
表示機能	表示装置	15.4型TFTワイドカラー液晶ディスプレイ (WXGA)
	グラフィック表示	横1280 × 縦800 1画面
入力装置	キーボード	OADG109Aキータイプ準拠 87キー (文字キー、制御キーの合計)
	ポインティングデバイス	タッチパッド内蔵
補助記憶装置	SDカードスロット	1個装備
	2.5型ハードディスクドライブ	1台内蔵
	DVDマルチドライブ*1	1台内蔵 CD-ROM 読み出し：最大24倍速 CD-R 書き込み：最大16倍速 CD-RW (マルチスピード) 書き換え：最大4倍速 High-Speed CD-RW 書き換え：最大8倍速 DVD-ROM 読み出し：最大8倍速 DVD-R 書き込み：最大2倍速 DVD-RW 書き換え：等倍速 DVD-RAM 書き換え：2倍速 8cm、12cmのディスク対応 マルチセッション
インタフェース	RGB	1個装備
	パラレル	1個装備 (ECP対応)
	USB	3個装備 USB2.0準拠*2
	i.LINK (IEEE1394)	1個装備 (S400・4ピン)
	PCカード	1個装備 PC Card Standard準拠 (TYPE II x 1) CardBus対応

インタフェース	サウンド	マイク入力 (モノラル) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) ヘッドホン出力 (ステレオ) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) 内蔵スピーカ (ステレオ) 装備 内蔵マイク装備
	ビデオ	S-Video出力 1個装備
通信機能	モデム *3	1個装備
	LAN	1個装備 100BASE-TX/10BASE-T
	無線LAN	1個装備 IEEE802.11g および IEEE802.11b (最大54Mbpsまで対応) 準拠
	赤外線	1ポート装備 IrDA1.1準拠
カレンダー機能		日付、時計機能を標準装備 充電型電池によるバックアップ
電源	ACアダプタ	AC100~240V (50Hz、または60Hz) ACアダプタ
	バッテリー	バッテリーパック Li-Ion 10.8V/4400mAh
最大消費電力		約75W
使用環境条件		温度：5℃~35℃ 湿度：20%~80%Rh
外形寸法 (突起部除く)		360 (幅) × 270 (奥行) × 25.4 (最薄部) / 35.9 (高さ) mm
質量		約2.8kg

- \* 1 ドライブは、各種ディスクの種類や特性にあった速度を選択して読み出し/書き込みを行います。ディスクによっては最大速度での読み出し/書き込みができない場合があります。
- \* 2 従来のUSB1.1規格と完全な互換性を持つとともに、USB1.1と比べて40倍(理論値)の高速データ転送の可能なHighSpeedモードをサポートします。  
ただし、すべてのUSB1.1/2.0対応機器の動作を保証するものではありません。
- \* 3 内蔵モデムは対応世界61地域以外では使用できません。33.6kbps以上の高速受信は接続先の対応や回線状態などが整った場合のみ可能です。送信時は最大33.6kbpsでの接続になります。K56Flex™には対応していません。FAX通信ソフトは搭載していません。

## 【東芝PC診断ツール】

基本仕様の一部は「東芝PC診断ツール」で確認することができます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC診断ツール] をクリックする
- 2 [基本情報] タブで確認する

### メモ

「東芝PC診断ツール」で表示される内容は、その時点での設定内容です。購入後に設定を変更された場合は、変更後の設定内容が表示されます。ただし [CPU] の項目には、搭載されているCPUの最大クロック数（固定値）が表示され、これはユーティリティなどによる設定値には影響されません。

## 【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、日本の規格にのみ準拠しています。その他の地域で使用する場合は、当該国・地域の法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

使用できる電圧（AC）は、100Vです。

必ずAC100Vのコンセントで使用してください。

\*取得規格は、電気用品安全法です。

## 【ACアダプタの仕様】

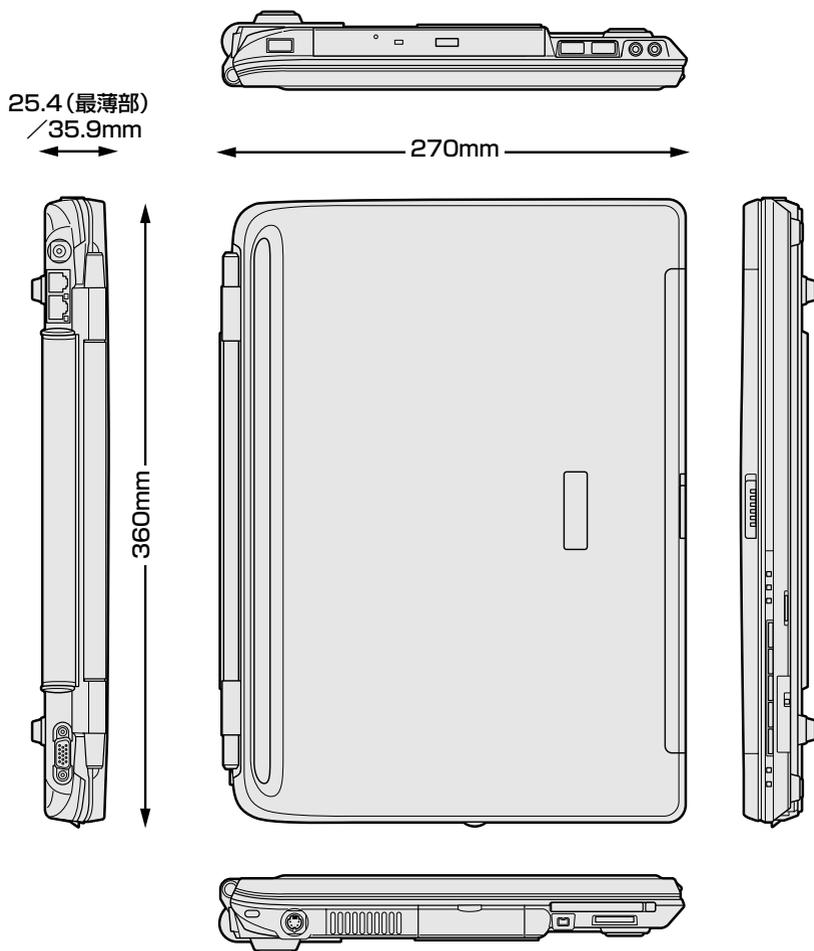
本製品に同梱されているACアダプタは、海外でも使用できます。

入力：AC100～240V、1.2A-0.6A、50-60Hz

出力：DC15V 5A

## 2 外形寸法図

\* 数値は突起部を含みません。



### 3 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照 → 表示可能色数の詳細について

『使ってみよう 1 章 6-①-1 表示可能色数』

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40 x 25字	8 x 8	16/256K	70
2,3		80 x 25字			
0*,1*		40 x 25字	8 x 14		
2*,3*		80 x 25字			
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16		
2+,3+		80 x 25字			
4,5	VGA	320 x 200ドット	8 x 8	4/256K	
6	グラフィックス	640 x 200ドット		2/256K	
7	VGA テキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ	
7+			8(9) x 16		
D	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
E		640 x 200ドット			
F		640 x 350ドット	8 x 14	モノクロ	
10				16/256K	
11		640 x 480ドット	8 x 16	2/256K	60
12				16/256K	
13	320 x 200ドット	8 x 8	256/256K	70	

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
-	WXGA グラフィックス	640 x 480ドット	-	256/256K	60/75/85 /100
-		800 x 600ドット	-		
-		1024 x 768ドット	-		
-		1280 x 800ドット	-		
-		1280 x 1024ドット* <sup>1</sup>	-		
-		1600 x 1200ドット* <sup>1</sup>	-		
-		1920 x 1440ドット* <sup>1</sup>	-		
-		2048 x 1536ドット* <sup>1</sup>	-		
-		640 x 480ドット	-		
-		800 x 600ドット	-		
-		1024 x 768ドット	-		
-		1280 x 800ドット	-		
-		1280 x 1024ドット* <sup>1</sup>	-		
-		1600 x 1200ドット* <sup>1</sup>	-		
-		1920 x 1440ドット* <sup>1</sup>	-		
-		2048 x 1536ドット* <sup>1</sup>	-		
-		640 x 480ドット	-	16M/16M	60/75/85 /100
-		800 x 600ドット	-		
-	1024 x 768ドット	-			
-	1280 x 800ドット	-			
-	1280 x 1024ドット* <sup>1</sup>	-			
-	1600 x 1200ドット* <sup>1</sup>	-			
-	1920 x 1440ドット* <sup>1</sup>	-			
-	2048 x 1536ドット* <sup>1</sup>	-			
-					

\* 1 : LCD に表示する場合は、実際の画面（1280 × 800）内に、仮想スクリーン表示します。

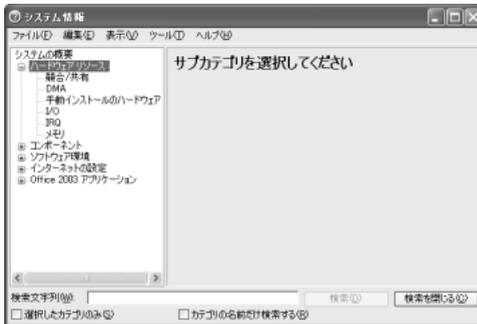
注）一部の画面モードはマルチモニターでは使用できません。

## 4 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/Oポートマップ、IRQ使用リソース、DMA使用リソースは次の方法で確認できます。

使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする



メモリマップ           : [メモリ]  
I/Oポートマップ       : [I/O]  
IRQ使用リソース       : [IRQ]  
DMA使用リソース       : [DMA]

## 2 技術基準適合について

### 瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

### 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

▶ 『困ったときは 3 章  
Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい』

### 高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

### 国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



▶ 省電力設定について 「3 章 2 省電力の設定をする」

---

## FCC information

Product name : dynabook VX1/W15LDEW

Model number : PSM30N-0266F

### FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

**WARNING** : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, USB connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

### FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

### Contact

**Address** : TOSHIBA America Information Systems, Inc.  
9740 Irvine Boulevard  
Irvine, California 92618-1697

**Telephone** : (949) 583-3000

**TOSHIBA**

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PSM30N-0266F conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

## モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



### ●対応地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2004年1月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

### ●自動再発信の制限

内蔵モデムは 2 回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を 2 回以下または再発信間隔を 1 分以上にしてください）。

\* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は 2 回以内（但し、最初の発信から 3 分以内）」に従っています。

参照 → 関連情報は《サイバーサポート》

### Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

### Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. It has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

---

## **Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:**

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.  
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

## **Type of service**

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

## **Telephone company procedures**

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

## **If problems arise**

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

## Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

## Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

---

## Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1 **NOTICE** : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

**NOTICE** : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353A-L4AINT

# Notes for Users in Australia and New Zealand

## Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

## Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
  - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

- 
- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
  - c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
  - Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
  - The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
    - ATB0 (CCITT operation)
    - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
    - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
    - ATS0=0 (not auto answer)
    - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
    - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
    - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
  - When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
    - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
    - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
  - The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
    - Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
    - Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
    - Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
  - The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
    - Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
  - It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
  - When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
  - This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

### **General conditions**

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

# Panasonic DVD-RAM ドライブ UJ-811B (DVD マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。  
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

## ⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。  
本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。  
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT  
LASER KLASSE 1

**CAUTION**

CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.

**ATTENTION**

CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.

**VORSICHT**

KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

**ADVARSEL**

KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.

**ADVARSEL**

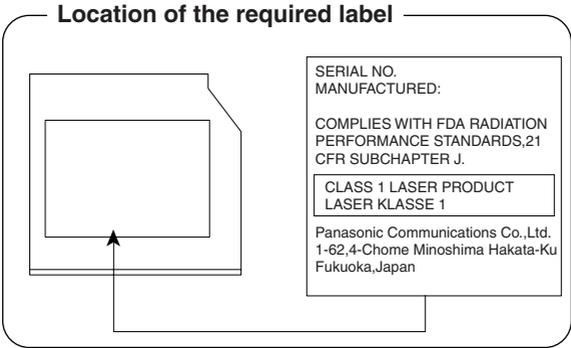
KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.

**VARNING**

KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

**VARO!**

KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.



# TEAC DVD-RAM ドライブ DV-W22E (DVD マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。  
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

## ⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用してい

CLASS 1 LASER PRODUCT  
LASER KLASSE 1

ます。  
本装置の定格銘  
板には、右記の  
表示がされてい

CAUTION - CLASS 1M LASER RADIATION WHEN OPEN.  
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH OPTICAL INSTRUMENTS.  
VORSICHT - LASERSTRAHLUNG KLASSE 1M, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET.  
NICHT DIREKT MIT OPTISCHEN INSTRUMENTEN BETRACHTEN.

ます。  
本装置はヨー  
ロッパ共通の  
レーザ規格

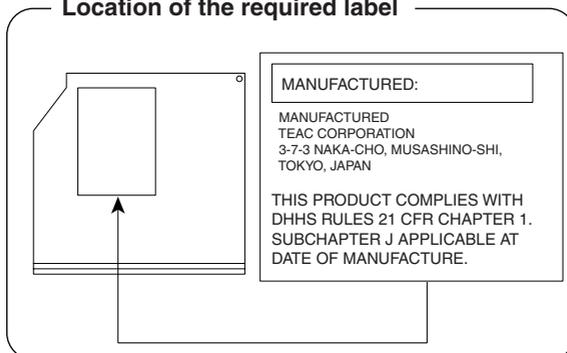
CAUTION - CLASS 3B INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN.  
AVOID EXPOSURE TO THE BEAM.  
VORSICHT - UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG KLASSE 3B, WENN ABDECKUNG  
GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。

レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

### Location of the required label



# 3 無線 LAN について

## 1 無線特性

無線 LAN の無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない 2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線周波数帯	IEEE802.11g, IEEE802.11b	2.4GHz (2400-2497MHz)
変調方式	IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK
データレート	IEEE802.11g	54/48/36/24/18/12/9/6Mbps
	IEEE802.11b	11/5.5/2/1Mbps

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

### メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

## 2 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 2.4GHz 帯のチャンネルは、国／地域内で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャンネルセット」参照）。

各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

### 【無線 IEEE802.11 チャンネルセット】

周波数帯域	2400-2497 MHz
チャンネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
<b>10</b>	<b>2457</b> *1
11	2462
12	2467 *2
13	2472 *2
14	2484 *2

\* 1 購入時に設定されているチャンネルです。

\* 2 これらのチャンネルが使用可能かどうかは、使用する無線 LAN モジュールによって異なります。使用可能チャンネルについては、同梱の『ご使用できる国／地域について』を参照してください。

無線 LAN をインストールする場合、チャンネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャンネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャンネルを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャンネルもこの範囲にする必要があります。
- "ピア・ツー・ピア" モードで無線 LAN 接続する場合は、チャンネル 10 が使用されます。

### 3 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は 2,400MHz～2,483.5MHz です。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯 2,427MHz～2,470.75MHz と重複しています。

#### 【1. ステッカー】

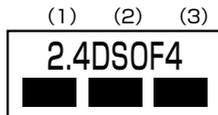
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている次のステッカーをパソコン本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz 帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

#### 【2. 現品表示】

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示のどちらかが記載されています。



(4)

- (1) 2.4    : 2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。
- (2) DS    : 変調方式が DS-SS 方式であることを示す。
- OF    : 変調方式が OFDM 方式であることを示す。
- (3) 4     : 想定される与干渉距離が 40m 以下であることを示す。
- (4) ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHz の全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

#### 【3. 東芝 PC ダイヤル】

受付時間     : 9:00～19:00（年中無休）

ナビダイヤル : 0570-00-3100

## 4 機器認証表示について

本製品には、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：PA3299U-1MPC

株式会社 ディーエスピーリサーチ

認証番号：03NYDA0230

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

## 5 お客様に対するお知らせ

### 【無線製品の相互運用性】

Atheros AR5001X+ Wireless Network Adapter 製品は、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) / Orthogonal Frequency Division Multiplexing (OFDM) 無線技術を使用するあらゆる無線 LAN 製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers (米国電気電子技術者協会) 策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision B/G) (無線 LAN 標準規格(版数 B/G))
- Wi-Fi Alliance の定義する Wireless Fidelity (Wi-Fi) 認証

### 【健康への影響】

Atheros AR5001X+ Wireless Network Adapter 製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Atheros AR5001X+ Wireless Network Adapter 製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Wireless LAN の使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

### 【 規制に関する情報 】

Atheros AR5001X+ Wireless Network Adapter 製品のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

### ● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

This device has been designed to operate with an antenna having a maximum gain of 4.8dB. Antenna having a higher gain is strictly prohibited per regulations of Industry Canada. The required antenna impedance is 50 ohms.

To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (EIRP) is not more than that required for successful communication.

To prevent radio interference to the licensed service, this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.

Pour empêcher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l'objet d'une licence, il doit être utilisé à l'intérieur et devrait être placé loin des fenêtres afin de fournir un écran de blindage maximal. Si le matériel (ou son antenne d'émission) est installé à l'extérieur, il doit faire l'objet d'une licence.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

IC:248H-DPA3299W or 248H-DPA3299P

---

## ● Europe - EU Declaration of Conformity

This device complies with the essential requirements of the R&TTE Directive 1999/5/EC with essential test suites as per standards:

---

België/  
Belgique: For outdoor usage only channel 10 (2457 MHz) and 11 (2462MHz) is allowed. For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. An IBPT/BIPT license is required for public usage outside building. For registration and license please contact IBPT/BIPT.

---

Gebruik buiten gebouw alleen op kanalen 10 (2457 MHz) en 11 (2462 MHz). Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke grond over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor publiek gebruik buiten gebouwen is licentie van BIPT/IBPT verplicht. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.

---

L'utilisation en extérieur est autorisé sur le canal 10 (2457 MHz) et 11 (2462 MHz).

Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de l'IBPT est requise. Pour une utilisation publique à l'extérieur de bâtiments, une licence de l'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter l'IBPT.

---

Deutschland: License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow

---

Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.

---

France: Restricted frequency band: only channels 10 and 11 (2457 MHz and 2462 MHz respectively) may be used in France. License required for every installation, indoor and outdoor installations. Please contact ART for procedure to follow.

---

Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 10 à 11 (2457 et 2462 MHz respectivement) doivent être utilisés en France.

Toute utilisation, qu'elle soit intérieure ou extérieure, est soumise à autorisation. Vous pouvez contacter l'Autorité de Régulation des Télécommunications (<http://www.art-telecom.fr>) pour la procédure à suivre.

---

Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed E' necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. L'uso per installazione in esterni non e' permessa.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure

### ● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This device complies with Part 15 of FCC Rules. Operation of the devices in a Wireless LAN System is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference.
- This device must accept any interference that may cause undesired operation.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Atheros AR5001X+ Wireless Network Adapter or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.

The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

#### **Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.**

The Atheros AR5001X+ Wireless Network Adapter will be installed with one of two types of antennas. The both of antenna types, when installed are located at the upper edge of the LCD screen.

For both antennas, the radiated output power of the Atheros AR5001X+ Wireless Network Adapter is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Atheros AR5001X+ Wireless Network Adapter shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. In normal operating configuration, the LCD in the upright position, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm.

The antenna(s) used for this transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter. Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website [www.hc-sc.gc.ca/rpb](http://www.hc-sc.gc.ca/rpb).

RF device shall not be co-located with any other transmitter.

---

## ● Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.

The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

# さくいん

<b>B</b>	
Battery LED .....	57
<b>C</b>	
ConfigFree .....	22
<b>D</b>	
DMA 使用リソース .....	98
<b>I</b>	
i.LINK コネクタ .....	45
i.LINK 対応機器の取り付け .....	46
i.LINK 対応機器の取りはずし .....	46
i.LINK によるネットワーク接続 .....	46
I/O ポートマップ .....	98
IEEE1394 コネクタ .....	45
IEEE1394 対応機器の取り付け ...	46
IEEE1394 対応機器の取りはずし .....	46
IRQ 使用リソース .....	98
<b>L</b>	
LAN ケーブルの接続 .....	8
LAN コネクタ .....	8
LAN コネクタに関するインジケータ	9
<b>P</b>	
PC カードスロット .....	31
PC カードの取り付け .....	31
PC カードの取りはずし .....	31
<b>R</b>	
RGB コネクタ .....	41
<b>S</b>	
S-Video 出力コネクタ .....	35

S 端子ケーブルの取り付け .....	35
S 端子ケーブルの取りはずし .....	40

<b>U</b>	
USB コネクタ .....	33
USB 対応機器の取り付け .....	33
USB 対応機器の取りはずし .....	34

<b>W</b>	
WEP (暗号化) 機能 .....	13
Windows のネットワーク設定 .....	10
Windows のログオンパスワード ...	82

<b>ア</b>	
アンインストール .....	73

<b>イ</b>	
インストール .....	72
インタフェース .....	28
インフラストラクチャネットワーク .....	15

<b>カ</b>	
海外でインターネットに接続する ..	24
外形寸法図 .....	95
外部ディスプレイの接続 .....	41

<b>キ</b>	
休止状態 .....	67

<b>コ</b>	
コンピュータウイルス .....	8

<b>シ</b>	
使用できるマイクロホン .....	47

## ス

スーパーバイザパスワード .....	82
スタンバイ .....	66

## セ

製品仕様 .....	92
------------	----

## ソ

増設メモリスロット .....	50
増設メモリの取り付け .....	51
増設メモリの取りはずし .....	53

## テ

テレビに表示する .....	35
----------------	----

## ト

トークンの作成 .....	85
東芝 HW セットアップ .....	77
東芝 PC 診断ツール .....	94
東芝省電力 .....	64
東芝パスワードユーティリティ .....	83
時計用バッテリー .....	59
ドライバをインストールする .....	29

## ナ

内蔵モデム .....	24
内蔵モデム用地域選択ユーティリティ .....	24

## ハ

ハードウェアリソースについて .....	98
バッテリー安全ロック .....	62
バッテリー駆動で使用できる時間 .....	60
バッテリー充電完了までの時間 .....	60
バッテリー充電量が減少したとき .....	58
バッテリー充電量を確認する .....	57

バッテリーの充電方法 .....	59
バッテリーの充電保持時間 .....	61
バッテリーパック .....	56
バッテリーパックの交換方法 .....	62
バッテリー・リリーススラッチ .....	63
バッテリーを長持ちさせるには .....	61
パネルスイッチ機能 .....	69
パラレルコネクタ .....	43

## ヒ

ピア・ツー・ピアワークグループ ..	14
ビデオモード .....	96
表示装置の切り替え .....	35

## フ

プラグアンドプレイ .....	29
プリンタケーブルの取り付け .....	43
プリンタケーブルの取りはずし .....	44
プリンタの設定 .....	43
プレインストール .....	72

## ヘ

ヘッドホン出力端子 .....	48
ヘッドホンの接続 .....	49

## マ

マイク入力端子 .....	47
マイクロホンの接続 .....	48

## ム

無線 LAN .....	11
無線 LAN について .....	113

## メ

メモリマップ .....	98
メモリ容量の確認 .....	54

## ユ

ユーザパスワード .....	82
ユーザパスワードの削除 .....	85
ユーザパスワードの登録 .....	83
ユーザパスワードの入力 .....	87
ユーザパスワードの変更 .....	86
ユーザパスワードを忘れてしまった場合 .....	88

## リ

リリース情報 .....	6
--------------	---

